

1. プロジェクトの目的・概要

プロジェクトの最終的な目標は、現在ウェブ上に構築してきている『おたるくらし』マップ (<http://otaru-class.com/map/>) を実際に多くの人に使ってもらい、小樽を訪れてもらえるようにすることであり、本プロジェクトではその予備調査を行った。

2. 具体的な取組内容

『おたるくらし』マップの使い勝手の改善を現在行いつつある。まず、2017年2月末までの『おたるくらし』の記事の位置データを入力した。2017年2月に(株)K2の中山氏と話し合い、おたるくらしマップを以下のように改善するようにした。

- 『おたるくらし』マップのアイコンをクリックすると使い方が出る。
- 写真をクリックしたらテキストが出る。
- 写真をもう1度クリックしたら写真が消える。
- テキストをもう一度クリックしたらテキストが消える。
- 地図上のアイコンのサイズを小さくする。または、地図の大きさに応じて変わるようにする。
- おたるくらしの絵と写真・テキストが重ならないようにする。

この作業が完了した後、実際に、『おたるくらし』フェイスブックユーザに『おたるくらし』マップを使ってもらい、これまでこちらが気づかなかった問題点がないかどうか、更なる修正点の洗い出しを行う予定である。

なお、これまでの話し合いの中で、『おたるくらし』マップの地図上の記事を追っていくだけでは、自宅にいながら、一度も訪問したことの無い小樽のイメージを醸成するのは難しいのではないかと結論に達した。そこで、ドローンを使い、小樽駅前から中央通りまで行ってそこから運河を北から南までゆっくり飛び、その後堺町通り、寿司屋通りを通過して小樽駅に戻る動画を作成し、『おたるくらし』マップに置くことを現在考えている。旅行のシミュレーションになる小樽のイメージを、こうした動画を記事と合わせて使うことで、旅行前につけることができる。

小樽のイメージは良いイメージでなければならない。ドローン撮影で安価に得られる、立体的でダイナミックな映像は、そうした良いイメージを潜在的な観光客の心に醸成するのに有効であると思っている。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

Webの情報を積極的に活用し、かつ、自らも情報発信を行うタイプの人たちのWeb上でのコミュニケーション行動を調べる研究が始まりつつある。研究面で見るとき、本プロジェクトの成果は、代表者のこうした研究の成果になっている。今後、フェイスブックのようなソーシャルメディアが現実に提供するデータが、研究にどう活用できるか、学会誌のデータとしてどの程度容認されるか、などを確認しながら、さらにプロジェクトを進めていきたい。また、『おたるくらし』マップの認知度を高め、誰もが簡単に使えるアプリを作ることが地域への還元になると考えている。